

平成19年度 蓮ダム管理所事業概要



2007年4月

蓮ダム管理所

TEL. 0598-45-0371

FAX. 0598-45-0343

URL <http://www.cbr.mlit.go.jp/>

E-mail hachisu@cbr.mlit.go.jp

1. 平成19年度予算及び組織

(1) 予算(単位:千円)

一般管理費	維持補修費	工事諸費	合計	公共負担金額	利水者負担額
227,294	350,500	78,000	655,794	432,168	223,626

(2) 組織(職名と職員数)

所長(1)

総務係長(1) - 事務官(2)、厚生福祉職員(1)

管理係長(1) - 技官(2)

電気通信係長(1) - 技官(1)

合計10名。ただし他事務所からの併任者を除く

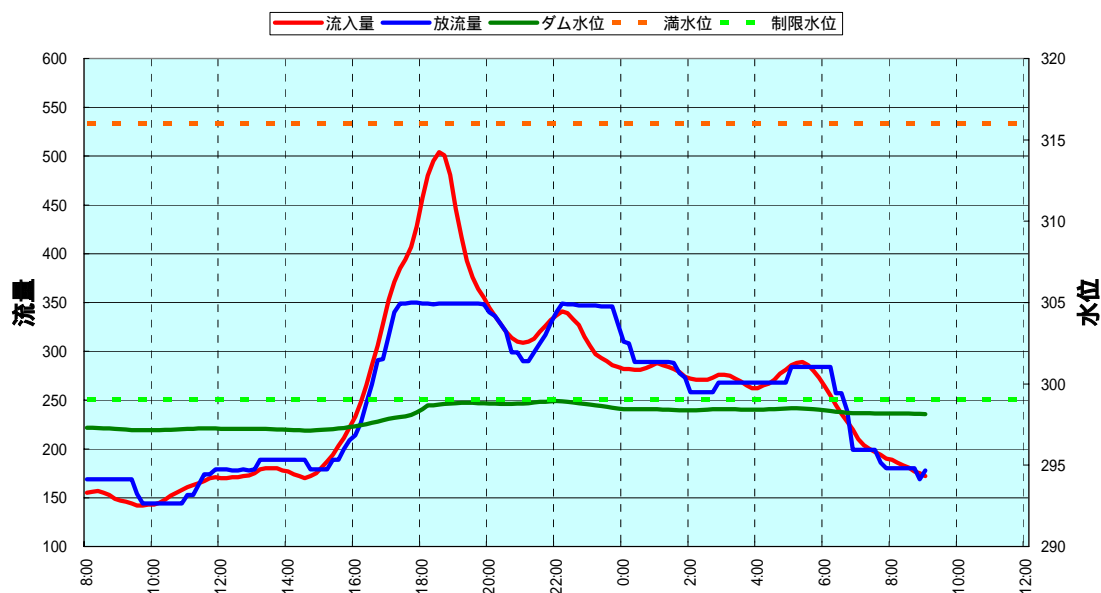
2. 洪水調節操作(6/16~10/31の間の出水期の場合)

(1) ダム貯水池への流入量が350ト/秒以上の間は350ト/秒の定量放流を行うことにより下流の洪水被害軽減に努めます。流入量が350ト/秒を下回った時点から貯水位が制限水位以下に低下するまで350ト/秒を限度とした放流を行います。

(2) 最大流入量が350ト/秒以下の出水の場合は流入量を超えない範囲の放流とします。

(3) 例外的に下流の河川管理者、自治体と協議して以上の方法と異なる放流を行う場合があります。

平成17年9月14号台風の例

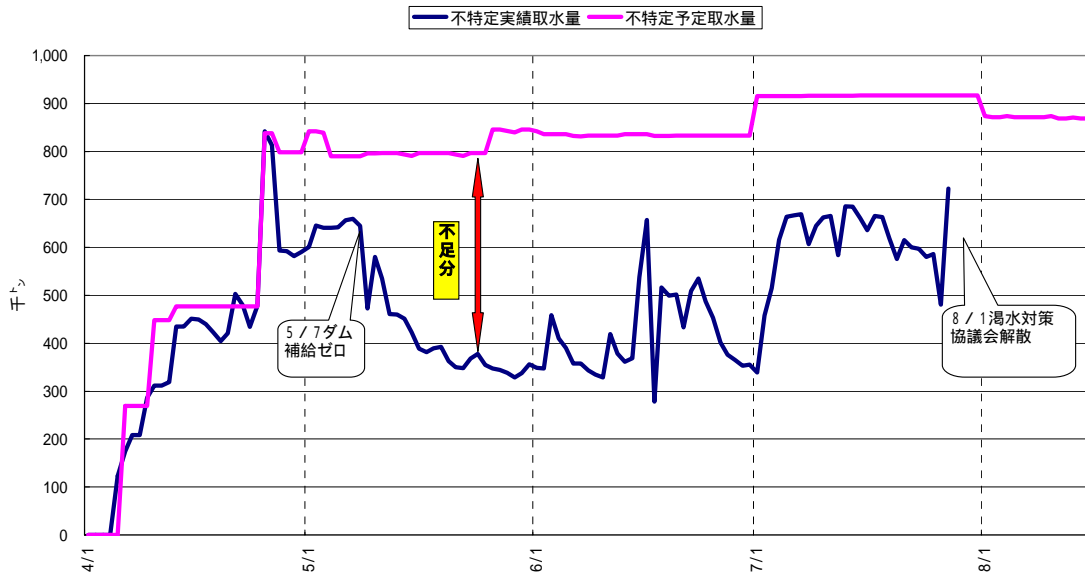


3. 用水補給操作、発電

(1) 企業庁南勢水道の安定的な取水ができるようダムの貯水を利用して補給放流します。

(2) 蓮ダムができる前から行われていた下流のかんがい用水、上工水の安定的な取水ができるようダムの貯水を利用して補給放流します。

2005年不特定実績取水量(統合頭首工下流分)



(3) 以上の放流を企業庁運発電所経由で行うことにより水力発電(最大4,800kW)を行います。

4. 貯水池水質管理

(1) 濁水長期化対策として、これまでおこなってきた選択取水と流水制御フェンスによる対策に加え、流水制御フェンスを流入濁度に応じて開閉するとともに、洪水後の貯水池運用の工夫によっても長期化軽減に努めます。

(2) プラクトンの異常発生に対しては、流水制御フェンスによる拡散防止で対処します。

5. 下流河川環境改善

ダムにより流量変化が少なくなったこと、土砂や植物の枝葉の流下が減少したことにより、ダムから櫛田川本川合流点までの河川環境がダム建設前とは大きく変わりました。その結果、魚類・昆虫類をはじめとする水棲生物も変化しています。H12年度からこの影響を緩和するためダムに堆積した土砂を流下させる試験施工とその影響モニタリング調査を行っています。いまのところ顕著な変化は見られませんが、最近ではアオミドロの大量発生などはみられなくなっています。

6. 平成19年度の主な工事、調査

(1) 工事

- ・ 流入水制御フェンス監視用設備(フェンス監視カメラ、遠隔制御装置を設置する。)



- ・ 流木処理（貯水池内の流木等の収集、処理を行う。）
- ・ 土砂管理（ダム上流の堆砂土砂の排除および下流の河川への投入を行う。）
- ・ その他ダム施設設備修繕及び更新

（２）調査

- ・ 自然環境調査（水質汚濁対策のモニタリング）
- ・ フォロアップ委員会（ダム管理フォローアップ委員会のとりまとめ及び委員会運営）
- ・ 河川水辺の国勢調査（両生類、昆虫類、哺乳類）
- ・ 流入水予測検討システム構築



奥香肌湖春まつり(津本公園)

7．水源地ビジョン

下流の受益者と「森を考える会」などダム周辺関係団体との交流イベント、水源地ハイキング等を通じて相互理解を進めると共にダムの役割に対する理解を深めてもらうことにより、元気な水源地を目指します。



森と湖に親しむ旬間

8．情報発信、ホームページリニューアル

- （１）広報誌「はちゅーす」の発行を継続します。本年度は特に蓮ダムと地域との関わりに力点をおいて編集します。
- （２）ホームページを通じて地域とのコミュニケーションをより密にすることで事業の推進に役立てるとともに、地域情報の発信を通じて水源地域の振興を図ります。
- （３）各種イベントに出展して市民に直接ダム情報を伝えます。
- （４）松阪ケーブルテレビへの下流河川画像配信を継続します。



水源地ハイキング